

フランス本土最西端あたり

志村 良知

行儀のよい五角形をしたフランスの左肩に二つの半島がある。ブリテン島に向かって突き出したノルマンディ半島と、ほぼ真西に大きく張り出しているブルターニュ半島である。

ブルターニュ半島の西端がフランス本土の最西端であることは間違いない。しかし、地図で見ると半島の西端はほぼ南北に直線でどこが最西端なのかちょっと見ではわからない。

ホテルで大縮尺の地図に克明に当たり、コルセン岬というのがどうも最西端らしいということが分かった。ホテルから直線5キロくらい、連れ合いはそんなものに付き合いきれないというので一人で向かう。原野を車で走ること30分でコルセン岬に着いた。岬には確かに最西端の碑があった。

ブルターニュ半島は大きい、最高地点は360mほどしかない。そのほぼ真ん中辺に『サンテゴネック聖堂囲い地』という場所がある。ミシュランガイドの緑本に出ていたので、その名前に惹かれてどんな所かと寄ってみたが、なかなか興味深かった。古い時代にこの地に広まったキリスト教が、辺境で異郷の土着の宗教と混ざり合って正統キリスト教とは違うものとなり、それをキリスト教だと信じていた土着民の宗教を正す矯正施設だった。

徳川の時代が終わって。隠れキリシタンが世に出たとき、ヨーロッパから来た宣教師の中にはこれは正統キリスト教ではないので矯正が必要だと主張した者もいたという。たぶんそれはフランス人であったであろう。

ブルターニュは、その位置からブリテン島とは縁深く、一言語主義のフランスにおいてバスク、アルザスと共に例外的に地域言語のケルト語の公式使用が許されている。道路案内板も二か国語表示である。

半島突端に近いブレストは古くからの軍港で、横須賀の姉妹都市である。昔、たまたま行った横須賀港でベルニー祭なるブレストゆかりのお祭りの真っ最中にぶつかり、主催者らしき人に「仲間に入れ」と呼ばれ、名物シードルとカルバドスをしこたまよばれたことがあった。

(10 Jul 2025)

